

ヒートポンプの特性や効率利用を追求

—第 53 回農業電化研究会を開催—

(一社) 農業電化協会

本協会は昨年 12 月 15 日、東京の TFT ビルで各地区、農業団体の農電関係者、農電機器メーカー関係者らの参加を頂いて第 53 回農業電化研究会を開催した。9 地区から研究成果が発表され、それぞれ参加者と質疑を交わした。今回も本協会が協賛している農業生産と青果物流通技術の総合展として知られる「アグロ・イノベーション 2016」の開催（会場：ビックサイト）に合わせて実施した。

この研究会は、農業電化に関わる先端技術の発表の場になっており、今回もヒートポンプに関する研究が多くを占めた。積雪寒冷地域での地下水熱源ヒートポンプの優位性の実証、ヒートポンプ冷房を活用したハウスの半閉鎖管理によるアルストロメリアの収量アップ、その除湿機能を活用した施設ナスの病害対策、冷暖房機能を活かしたフリージアの開花期の前進、イチゴの多植栽培にヒートポンプを利用したクラウン部局所温度制御など多様な利用技術が示された。その一方で、



田澤信二代表理事

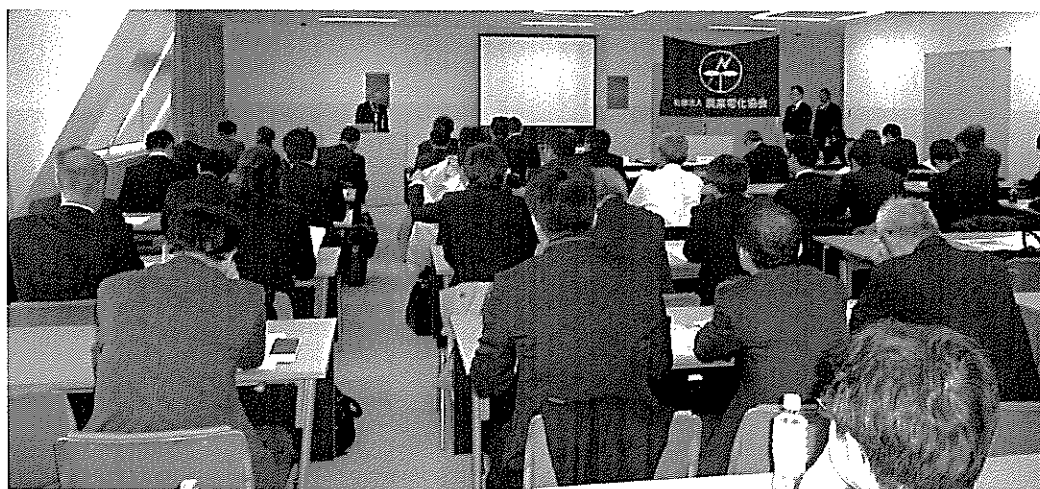


原孝文生産資材対策室長

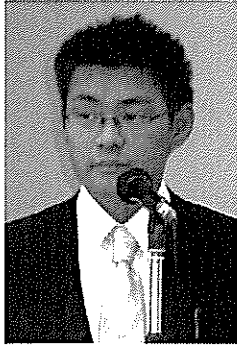
ヒートポンプの効率利用と CO₂ の排出削減への提案も行われた。

そのほか、LED 照明による馬鈴薯の緑化防止、ニガウリ（ゴーヤ）の促成栽培における CO₂ 局所施用、イチゴの局所加温のためのエコキュート利用技術なども提示された。

研究発表に先立ち本協会の田澤信二代表理事が挨拶、続いて農林水産省生産局技術普及課の原孝



第 53 回農業電化研究会の会場風景



北陸・高田明良氏



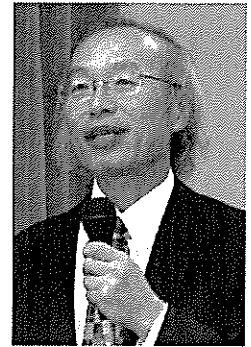
四国・山本敬司氏



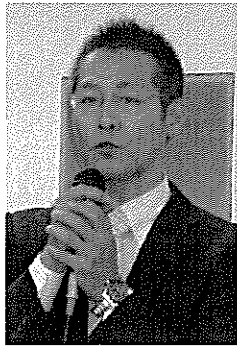
九州・緒方千佳氏



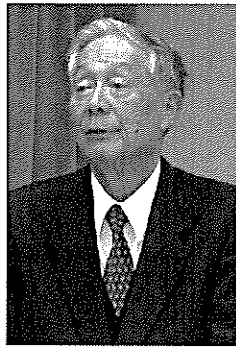
沖縄・谷合直樹氏



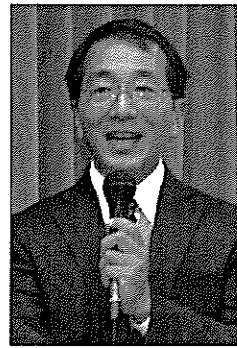
北海道・原田和夫氏



東北・古野伸典氏



関東・関山哲雄氏



中部・神谷勝己氏



中国・鶴山浄真氏

文生産資材対策室長に來賓挨拶を頂いた。田澤代表は今回の研究会について「ヒートポンプや照明の効果的な活用といった生産者が望む情報が多い」とし、また「農業電化技術は災害時の水、電気の確保にも役立つので、そのヒントもこの研究発表の中にある」と強調した。

原室長は、農政と生産資材について現状と今後の対策などを紹介するとともに、農業電化技術を農業の現場で活かすための工夫、取り組みの重要性を指摘、「本日発表される研究成果も現場で利用が進むことを期待している」と述べた。

研究発表のタイトルと発表者は次のとおり（発表順）。

▽北陸地区・フリージアの連続開花作型におけるヒートポンプ冷暖房機の利用：高田明良氏（石川県農林総合研究センター農業試験場）

▽四国農業電化協会・施設ナスにおけるヒートポンプ除湿機の導入効果について：山本敬司氏（株四国総合研究所）

▽九州地区・エコキュートを利用したイチゴ局所加温システムの開発：緒方千佳氏（佐賀県農業試験研究センター）

▽沖縄地区・ニガウリ促成栽培環境下におけるCO₂局所施用の効果：谷合直樹氏（沖縄県農業研究センター）

▽北海道地区・馬鈴薯の緑化防止用照明装置：原田和夫氏（北海道電力㈱総合研究所）

▽東北農業電化協会・積雪寒冷地域における地下水熱源ヒートポンプの優位性と実践例：古野伸典氏（山形県庄内総合支庁農業技術普及課）

▽関東地区・植物工場など園芸施設におけるヒートポンプの効率的な利用に関する提案：関山哲雄氏（千葉大学環境健康フィールド科学センター）

▽中部地区・半閉鎖管理によるアルストロメリアの収量向上：神谷勝己氏（長野県野菜花き試験場）

▽中国地区・イチゴ多植栽培システムのクラウドン部局所温度制御技術を活かした長期多収生産体系の確立：鶴山浄真氏（山口県農林総合技術センター）

（研究発表の詳細は2016別冊・特集号をご覧ください）